

# エディトリアル

湯沢町保健医療センター センター長 浅井泰博

今回の特集では、精神科へのアクセスが悪くリソースが乏しい環境で、精神科領域の問題に対して困難や苦手意識を感じながら診療している医師を対象に、その負担の軽減の手がかりになるよう、総合医が診るという視点で執筆いただいた。

池田氏にはうつ病の診療について解説いただいた。Common diseaseの一つとなっているうつ病診断には補助ツールを利用し除外診断が重要とし、治療の原則として大うつ病性障害治療ガイドライン(オンラインで参照可能)を推奨し、自殺の予兆を感じた時の対応、新型コロナウイルス感染症の影響についても述べていただいた。

新安・西倉両氏には、不安障害の中の特にパニック症/パニック障害について、診断と治療のポイントを中心に解説いただいた。精神科への紹介を考える際の注意点は心しておきたい。ベンゾジアゼピンの乱用予防に重要なこと、著者作成のジアゼパム換算表を用いた減量方法、が示された。

浜田氏には、地域の総合医が統合失調症の患者を診なければならない状況を想定し、実用的な診療(症状、経過、診断、治療、高齢者の精神病状態)を解説いただいた。治療目標としてpersonal recoveryを支援すること、精神科医の処方苦心の歴史を汲み取ってほしいという点が私には印象的であった。

鈴木・生坂両氏は、精神疾患と器質疾患の鑑別について7症例を挙げ、診断の考え方を示された。血液・尿検査でのスクリーニング、頭部画像での診断、器質疾患の臨床的特徴、発作性で疑うVAPESの病態、精神疾患の積極的診断、身体症状症の診断に用いるA-MUPSスコアは診断精度を高めるために学んでおきたい。

堤氏には、医師・医療者のメンタルヘルスに関するセルフケアについて解説いただいた。医師・医療者はメンタルヘルスが侵されやすい環境にいることを認識し、自らのメンタルヘルスの問題に気づき、適切にストレスに対して対処し、適切に支援を求めることを勧めている。

最後に、竹島・柴崎・石井の各氏には、精神保健福祉に関わる法・制度について概要を述べていただいた。医療および保護の確保から始まり現在の精神保健福祉法に至る歴史的経緯、現在の任意入院等の入院形態、また地域医療現場で利用する可能性の高い自立支援医療(精神通院医療)と精神障害者保健福祉手帳、といずれも知っておくべき内容である。

新型コロナウイルス感染症により外来、入院、ワクチン接種などさまざまな負担が増えている読者も多いであろう。本特集が精神科領域の問題の診療に少しでも役立つことがあれば幸甚である。